

# ライフサポート：はた

NO 7 : 2013. 9. 20

四万十市中村大橋通7丁目1-24

連合高知西地協内 TEL:34-9191

発行責任者：事務局 石井 孝

## 2013 平和行動 in 根室に参加して

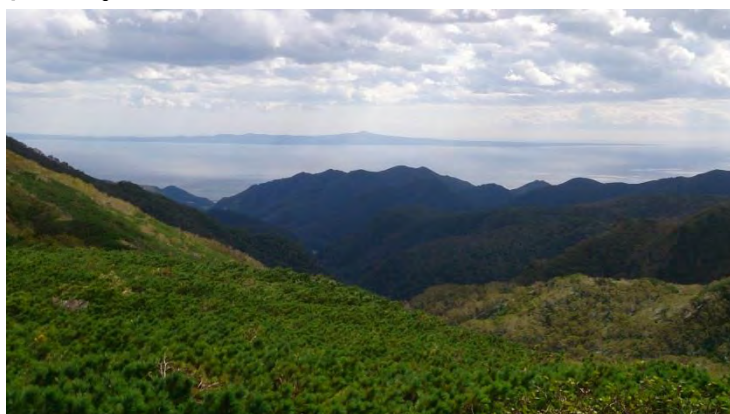
幡多 LSC 石井 孝

9月13日～16日の予定で「2013 平和行動 in 根室」に参加してきました。この平和行動は沖縄、長崎、広島、根室と毎年現地で学習会や集会を行っている、連合の平和4行動の一つです。今回は北方四島の学習会と根室半島の納沙布岬で2013 平和ノサップ集会に参加して来ました。

学習会では、国後島の元島民の方による「ふるさと北方四島への想い」、東海大学海洋学部教授による「日本の海と領土問題」、北方領土返還要求運動連絡協議会事務局長による「北方四島の今を知ろう」、毎日新聞記者・北の海の動物センター理事による「北方四島の自然と諸問題」、ロシア料理科による「ロシア風水餃子ペリメニづくり」の5つのセミナーが実施され、私は「日本の海と領土問題」のセミナーを受講しました。セミナーでは中国との尖閣諸島問題や韓国との竹島問題、そしてロシアとの北方四島問題について、それぞれの国の経済的・戦略的な思惑と如何に対峙していくのか。歴史的な背景と現在の日本としての優位性を、国際社会に訴えていく必要性とその手法について、大変興味深いセミナーでした。特に現在、実効支配されている北方四島においては、返還については厳しい状況にあるが、北方四島の海峡においてロシアが海域の安全や密猟への対応に苦慮している現状にあることから、外交により日本の海上保安庁が海域の安全と密猟対策を担うことにより、まずは四島の海域を実効支配すること。そして、現ロシア政権のガス開発等の支援を行いながら、実質的な四島の返還を求めていくことが、実効性のある手法として紹介されました。

2013 平和ノサップ集会では四島に住んでいた17,000人以上の島民が故郷を追われ、根室近隣に移り住むことを余儀なくされ、その元島民も平均年齢80歳以上となり、今なお、約7,000人の方が故郷へ帰る日を想いながら日々の生活を送っていることなど、元島民の悲痛な訴えを聴いてきました。我々にできることは、不当に占拠された歴史的背景を正しく理解し、北方領土返還の声を決して絶やさないと感じました。

16日に中標津空港から羽田経由で高知空港に帰る予定が、台風により飛行機が欠航し、2日間足止めされました。15日の集会では濃霧によって見ることが出来なかった北方四島も、18日には知床半島からクッキリとすぐ目の前に広がる国後島を見ることができました。参加させて頂きましてありがとうございました。



知床半島からの国後島